学校番号	3009

令和８年度　家庭科

教科	家庭科	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『家庭基礎　つながる暮らし 共に創る未来』（教育図書）						
副教材等	『カラーグラフ食品成分表 2026』（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇家庭生活における知識や技能、問題解決能力を身に付け、よりよい家庭生活を送る力を養います。
〇家庭生活に関心をもち、自分の考えをまとめながら積極的に取組みましょう。授業中に発表してもらう機会も設定します。また、疑問点があれば、積極的に自ら調べましょう。
〇評価は、定期考査、提出物及び提出作品、授業態度などを総合的に判断します。
〇講義は教科書と担当教員が作成したプリントを中心に行います。プリントは原則毎授業終了後に点検します。返却時に指示やメッセージを記載しますので、毎回確認し、ファイルに綴じ、家庭でしっかり復習してください。
〇実習作品は、必ず期限内に提出してください。場合によって補習を行います。

2　学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
（１）食、衣生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
（２）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
（３）様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実・向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	衣生活	・人間の生活と衣服のかかわり、衣服の主な機能について理解し、生活に生かすことができる。 ・自分自身の衣生活の分析を通して、衣服や日常の衣生活に関心をもつことができるようになる。 ・ライフステージの各場面に適した衣服、衣服計画の重要性について理解する。 ・衣服の素材(繊維、糸、布)の種類や特徴について理解する。 ・衣服素材の性能・着心地や構成について理解する。 ・購入、活用、手入れ、再利用や廃棄まで考えて、衣服計画を立てることができる。 ・衣服の表示について理解し、日常生活の中での活用について考える。 ・衣服の手入れ、管理の必要性やその方法について、科学的に理解する。 ・基本的な衣服製作の技術を身に付ける。 ・私たちの衣生活が環境に与える影響を考え、持続可能な衣生活について考える。	a:・被服の機能や、衣服が健康に与える影響について理解している。 ・ライフステージや目的に応じた衣服について理解している。 ・被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 ・布の縫い方など、基礎的な技術を身に付けている。 ・資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた衣服計画の必要性について理解し、衣服計画を立てることができる。 b:・衣生活に関する学習を通し、自身の着装について考え、まとめたり発表したりすることができる。 ・被服の社会的機能について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、調査したりしてまとめることができる。 ・自分の衣生活について、人と比較して意見を言うことができる。 ・衣服の原料から廃棄までの流れを調べ、まとめることができる。 c:・自身の衣生活の分析を通して、衣服に関心をもち、現代の衣生活に関心をもとうとしている。 ・衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。 ・社会的慣習に適応しながらも自己実現する着装の工夫をし、着用の目的に応じて健康的な衣服選択と着装をしようとしている。 ・被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。 ・衣生活に関する文化や背景について理解し、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。	定期考査 被服実習	定期考査 被服実習 プリント	被服実習 プリント

	食生活	・ 食事と健康とのかかわりや、人の一生における食事の役割について理解する。 ・ 日常用いられる食品に含まれる栄養素の種類や機能、主な食品の特徴について理解する。 ・ 安全や健康の観点から、食品を適切に選択したり保存したりする方法について理解する。 ・ 食事摂取基準について理解し、各栄養素の必要量についてのイメージを身に付ける。 ・ 私たちの体にとっての水の大切さを理解する。 ・ 年齢、性別、宗教など様々な背景や考え、相手に配慮した献立について考えることができる。	a:・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。 ・各ライフステージの食生活の課題と改善策について理解している。 ・食品表示の意味を理解している。 ・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。 ・日常用いられる食品の栄養素的特質、調理上の性質について科学的視点から理解している。 b:・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題を比較して、まとめたり発表したりできる。 ・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し、献立を考え作成することができる。 ・自身の食生活について、人と比較して意見を言うことができる。 ・新聞や書籍、インターネットによる資料収集などを通して、食の安全や栄養素、食文化について、考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食生活の問題について深く考えている。 c:・栄養素や食品の知識を生かし、自分や家族の食生活を改善しようとしている。 ・実生活で食品の表示を見て活用しようとしている。 ・自身や家族のほか、さまざまな年齢・ライフスタイルの人に必要な栄養素、適した献立について興味を持って調べている。	定期考査	定期考査 プリント	プリント

後期	食生活	・ 調理の基本的な技術を身に付け、安全や衛生に配慮した調理ができるようになる。 ・ 料理の盛りつけや配膳、食事のマナーの基本を理解する。 ・ 具体的な問題点から、現代の食生活の問題や課題について考える。 ・ 日本の食文化を理解し、私たちが食生活の伝統を引き継ぎ、新しく創造する主体であることを認識する。	a: ・食中毒や食物アレルギーについて理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 ・日常食の調理、栄養バランスのよい献立作成、食材の選択、調理、盛りつけ、マナー、配膳などについて総合的に理解している。 ・料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付け、効率よく調理することができる。 ・資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。 b: ・調理実習などを通して、食の安全や栄養素について、考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・調理の安全や衛生について具体的に考えている。 c: ・調理実習で学んだことを家庭などでも実践し、生活の充実・向上を図っている。 ・配膳や食事マナーを考えて、食事を整え、楽しく食事をしようとしている。 ・食生活の多様化や食環境の変化について知り、食生活と環境について科学的に考えようとしている。 ・食の安全・衛生について関心をもち、現代の食生活における課題に目を向けている。 ・行事食・郷土食・伝統的な加工食品などの食生活の文化と背景について理解し、自身が新しい食文化の担い手であるという意識を持っている。	定期考査 調理実習	定期考査 調理実習 プリント	調理実習 プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度